ボーリング柱状図

調　査　名　平成28年度公営住宅(大井住宅)

ボーリングNo　5 0 3 0 3 3 2 5 0 0 3

事業・工事名　新築工事地質調査

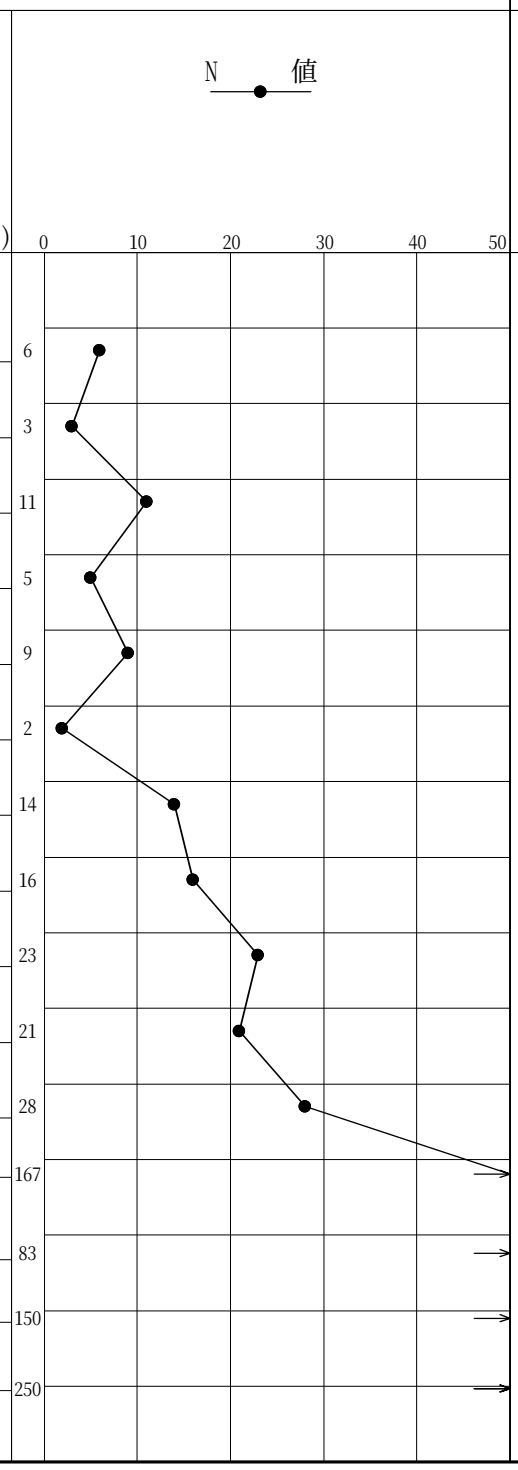
シートNo

ボーリング名	No.3	調査位置	福岡市博多区大井2丁目					北緯	33° 36' 14.4"
発注機関	福岡市 住宅都市局 住宅部 住宅建設課			調査期間	平成 28年 9月 30日 ～ 28年 10月 1日			東経	130° 26' 45.5"
調査業者名	株式会社ジオフォーメーション 電話 (092-567-7030)	主任技師	松崎 秀俊	現場代理人	松崎 秀俊	コア鑑定者	松崎 秀俊	ボーリング責任者	中田 英二
孔口標高	H=4.71m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	
総掘進長	15.06m								
試錐機	東方地下製D0-D型	ハンマー落下用具	半自動						
エンジン	ヤンマー製NFAD8型	ポンプ	SP-50						

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
	4.21	0.50	0.50		盛土・礫質土	暗灰			表層のAsは10cm。径5～20mm程度の砕石を主体とし、礫間は砂質土が充填。	
1 2	1.91	2.30	2.80		シルト質砂	灰～暗灰	緩い		粒径不均一な砂を主体とし、シルト分が多い。 含水量がやや多い。 深度1mまでの試掘は、比較的容易に掘ることができ、締まり具合が緩い。	
3 4 5	-1.29	3.20	6.00		礫混じり砂	暗灰	緩い		中砂～粗砂を主体とし、径2～10mm程度の礫を混じる。 孔壁は崩壊しやすく、ケーシングによる保孔を要した。 深度4m付近は、有機質シルトの薄層を挟む。	9/30 3.50 ▽
6	-1.79	0.50	6.50		シルト	茶褐		軟らかい	均質なシルトを主体とし、腐植物を比較的多く含む。	
7 8 9 10	-5.79	4.00	10.50		礫混じり砂	暗灰～淡青灰	中ぐらい		中砂～粗砂を主体とし、径2～10mm程度の礫を混じるほか、シルト分を含む。 含水量がやや多い。 砂粒子は礫は、全体に丸みを帯びており、上流山地より供給されたと考えられる。	
11	-7.19	1.40	11.90		シルト混じり砂礫	緑灰	中ぐらい		径2～30mm程度の礫を主体とし、礫間はシルト混じり砂が充填する。 含水量が少なく、試料は凝固した状態で採取される。	
12 13 14 15	-10.35	3.16	15.06		風化礫岩・軟岩	紫灰			当地の基盤に相当する第三紀層での礫岩と考えられる。岩質は、炭質のシルト～細粒砂と、径2～5mm程度の風化礫で構成される。 試料は固結土状で採取され、強い指圧で壊れる程度の硬さをなす。 N値はすべて50以上を示し、施工上は軟岩に区分される。	

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	2	2	2	6/30	6
1.45 2.15	1	1	1	3/30	3
2.45 3.15	3	4	4	11/30	11
3.45 4.15	2	2	1	5/30	5
4.45 5.15	3	3	3	9/30	9
5.45 6.15	1/15	1/15		2/30	2
6.45 7.15	4	5	5	14/30	14
7.45 8.15	5	5	6	16/30	16
8.45 9.15	7	8	8	23/30	23
9.45 10.15	7	7	7	21/30	21
10.45 11.15	7	10	11	28/30	28
11.45 12.15	50/9			50/9	167
12.24 13.15	20	30/8		50/18	83
13.33 14.05	50			50/10	150
14.15 15.00	50/6			50/6	250
15.06					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験(　)	掘進月日
						9/30